



富沢家住宅

養蚕



指定名称
国指定重要文化財
富沢家住宅

所在地
中之条町大字大道1274

指定面積
308.31㎡

所有
中之条町

概要

とみざわ
富沢家住宅は、18世紀の末に建てられた大型の養蚕農家で、2階に専用蚕室をもつ農家としては、国内最古級のもので、富沢家の所在する大道集落は、天正3年（1575）頃、開拓によってできた集落と伝えられています。江戸時代には大道新田と呼ばれ、三国街道の脇道が通っていました。このため、川の増水などで本街道が通行できない時には、大名や幕府の役人が通行することもありました。

富沢家は、江戸初期以来大道新田の名主をつとめるとともに、米作、養蚕、麦・雑穀や繭の取引、駄馬による運送業、そして金融業などを営みました。

富沢家住宅は、木造二階建て、茅葺き、入母屋造、東西約24m、南北約13mの大型農家です。この当時の農家は平屋が普通でしたが、富沢家住宅は、大きな屋根の正面部分を切り上げ、床を張り、屋根裏部分に光と風が入るようにして、2階を蚕室として利用できるように作られています。このように屋根の正面を切り上げた形は武士の被る兜に似ていることから前兜型と呼ばれています。2階は間仕切りのない一室で、正面は2階を支える梁が1階より外側に張り出したデバリ構造になり、張り出した部分は手すりをつけてベランダ状に作られています。この部分は、養蚕の際、通路として利用したり、桑を運び上げたりするときに利用しました。

1階には広い土間があり、馬屋が4頭分作られています。街道の荷物の輸送に使われていた馬の休憩のためと考えられ、通常の馬屋より少し小さく作られています。また、広い土間は荷物の一時保管や整理に使われていました。土間のとりには家族の居間として使われた座敷があり、ここには、いろいろが作られています。座敷の奥は「でえ・なかのでえ・上段」と三間続きの部屋になっており、ここは幕府役人等の宿泊に用いられていました。

富沢家住宅は、2階の蚕室としての利用や、デバリ構造によってスペースを広げる工夫など、明治以降の近代養蚕農家の建築にも影響を与えたと考えられ、江戸時代後期には群馬県山間部においても、広大な蚕室が必要なほど養蚕経営が拡大していたことを示す貴重な文化財です。このことから、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産の一つとして、世界遺産登録を目指しています。



見学のご案内



富沢家住宅



■行き方

○自動車を御利用の場合

関越自動車道 渋川伊香保ICから国道353号線を中之条町方面へ→松見橋信号三叉路を右方向へ→中之条信号を右折→直進約17km

※公共交通機関では現地まで行きませんので、タクシーまたは自家用車でお越し下さい。

■見学をする上での注意点

- ・駐車場までは大型バスの通行はできません。
- ・階段が急で危険なため、2階の見学は御遠慮下さい。
- ・入場は無料ですが、富沢家住宅の維持管理のための募金をお願いしています。
- ・解説を希望する方は、下記問い合わせ先に御連絡下さい。

■関連する見学地

- ・東谷風穴
- ・中之条町歴史民俗資料館 (TEL.0279-75-1922)

問い合わせ先

中之条町教育委員会 社会教育課
TEL.0279-76-3111

群馬県